

产地 直送便



発行(農)山形おきたま産直センター
山形県南陽市漆山 1068
TEL 0238 (47) 7338
<http://www.okitama.net>
2015.7.1 発行 責任者 星隆之

田んぼの除草について

有機米生産者 渡沢 寿

除草剤を使わない有機栽培において、最大の問題が雑草対策です。ご存知の通り、稻は苗をある程度大きく育ててから田んぼに植えるわけですが、種から発芽する雑草はそれを追い越す勢いで育っていきます。最悪の場合、稻を負かしてしまい雑草だらけの田んぼになってしまいます。

抑草（雑草を抑える）対策は大きく分けて2段階。まず、雑草がはびこりにくい条件を作ります。これは米糠を散布したり、秋代かきをしたり、長期間田んぼに水をためておいたりして、田んぼの中の微生物を元気にし、トロトロ層(粒子の細かいふわふわの土)を形成していく方法をとります。次に、どうしても生えてしまった雑草は機械や器具でやっつけます。もちろん機械は市販の専用機を使う場合もあるのですが、業者さんと共同で開発をしたり、一部自作してしまう場合もあります。除草の効果は田んぼの条件やその年の気候によって左右されてしまうので、さまざまな方法の中から最適な技術と組み合わせを選び出し、最適なタイミングで実施をしていく。抑草技術の確立のために、仲間と情報交換や協力をしながら、試行錯誤を繰り返しています。



「さくらんぼ狩り交流会」

6月28日に足立区職労さんが「さくらんぼ狩り」に山形にいらっしゃいました。毎年、生産者と消費者との交流を行っています。

担当地区の生産者とおがあさん方の手作り郷土料理でおもてなし…。

今年のメニューは、山形のだし/わらびの一本漬け/ひょうのおひたし/山菜汁/チヂミなど田舎ならではの昼食を満喫して頂きました。



デラウエア販売、始まります



あま~いデラウエアをお届けします。

デラウエアといえば皆様ご存じの「種なしぶどう」。山形県はぶどう生産量全国3位、その中でもデラウエアの生産量は全国の約6割を占めています。南陽市では江戸時代初期よりぶどう栽培が行われており、明治初期にデラウエアの生産が盛んになったと言われています。なぜ南陽市なのでしょうか？産直センターのある南陽市は盆地特有の昼夜の寒暖の差が激しい地域なんです。気温の差は糖度の高いブドウを作り上げます。また、当センターのデラウエアは特別栽培基準（減農薬、減化学肥料）で栽培されていますので安心してお召し上がり頂けます。注文書を同封致しますので、盆地気候が育んだあま~いデラウエアを是非ご堪能下さい。

山形おきたま産直センター／事務局 小嶋秀和

産直米変更連絡用紙 山形おきたま産直センター行き→FAX 0238-47-7318

お休みや重量変更などのご連絡は、お届日の10日前まで受付。

急な変更等は対応出来ない場合がございます。早めのご連絡をよろしくお願い致します。

お客様コードNO _____

FAX 送信日 月 日

氏名 様 ☎ - -

お休み連絡

月 日お届け分のみお休み

月～ 月までお休み

変更連絡

月 日お届け分の変更

～変更内容～